

## （流域との交流の輪を広げる「源流まつり」－森と水の源流館（川上村））

吉野川（紀の川）の源流に位置する吉野郡川上村は水源地の村として、水源環境の保全に力を入れている。今年で2回目となる「吉野川紀の川源流まつり」は、源流の役割や魅力を見直し、流域に住む人々と交流の輪を広げ、力を合わせて美しい森と水の源流地域を守ろうとの思いで、同村の「森と水の源流館」（財団法人吉野川紀の川源流物語）の主催で5月17日に開催された。

共催として、川上村発のアート創造の拠点として同村が開設した「匠の聚」（たくみのむら）、また大滝ダムの見学施設である国土交通省「大滝ダム学べる建設ステーション」が協力しており、開催場所として大滝ダム周辺が利用された。また、今年は規模が拡大され、平城遷都1300年祭250日前イベントとしても位置付けられている。

### ■子供たちの描いた新作陶板を「望郷の碑」に設置

まつりは、子供たちが描いた52枚の原画を「匠の聚」在住のアーティストらの協力で焼いた陶板の新作お披露目でオープンした。

昨年（2008年）の第1回の際に「望郷の碑」（思い出の広場）脇に設置された52枚の陶板の隣に並べられ、今年は、村内の子供たちのほか、和歌山県など広く村外からも製作に参加している。

もともと「望郷の碑」は、大滝ダム建設により水没する地域の人々の、村への思いを込め、昨年5月、ダムサイトに設置され除幕式を迎えたものである。「森と水の源流館」では、ちょうど開設6周年の時期に近かったことで、除幕式に合わせて第1回の「源流まつり」を開催。これより後は、さらに多くの人が集い、楽しみ、交流しながら、吉野川や源流に思う機会として継承していくこととした。

### ■川上村名物のふるまいと大滝ダム内部見学

まつりの主会場となった、「大滝ダム学べるステーション」前では、オリジナルエコバッグづくりや運動会でにぎわったほか、源流の水で炊いた川上村名物の「茶がゆ」や手づくり漬物もふるまわれ、午後までにぎわった。

さらに、ダム堰堤の内部見学会も催され、普段は立ち入ることのできない場所だけに人気を呼んだ。

「森と水の源流館」では、未来に生きるすべての子供たちに、美しい森と水と素晴らしい地球を残したいとの思いを基本理念に、様々な催しを開催してきた。そして、この「源流まつり」も昨年、今年、来年、そして次の年へと、どんどん成長する行事にしたいと願っている。（山城 満）



美しい森と水に囲まれて、新しい陶板のお披露目（上）や運動会（下）で午後までにぎわった。

### これからの主な催し

#### シンポジウム「水源地の村」からの提言「環境に生かされた地域づくり」

2009年8月26日（水） 13:30～16:30（開場13:00） 参加費無料・要予約  
 橿原市商工経済会館 7階大ホール（近鉄橿原神宮前駅 東口徒歩1分）

#### ●基調講演

上原 巖氏（東京農業大学森林総合学科准教授）  
 「森林療法ってなんですか？～山村をいかした健康づくり～」

#### ●体験と提言

「森林で得られる、多くのこと。」  
 ○川上村での森林環境学習の体験から（体験校報告）  
 ○山村地域での体験学習の今後  
 体験事業企画経験者 泉谷 繁樹氏（泉谷木材商店専務）

#### ●主催・問合せ先 森と水の源流館（川上村宮の平）

TEL 0746-52-0888 <http://www.genryuu.or.jp>

